

結婚するのは本人同士、

でも、親世代が考えることも必要です。



湯瀬早百合さん

特定営利活動法人「早麻ライフサポートセンター」代表

跡取り・長男という重荷を取り除いてあげたい

「王子様」を探す傾向があるようです。もしかすれば、結婚しなくてもいいという気持ちがあるのかもしれない。

跡取りという考え方が、結婚の障害になる場合もあります

若い男女が少ないですから、どちらも跡取りというケースが自然と増えます。そうすると、長男が結婚して家を継ぐという形式が成り立ちにくくなります。大館周辺は、特に跡取りとか長男とかのこだわりが強いので、それが結婚の大きな足かせになっているように思います。

極論すると、どちらも跡取りという立場から離れて、新しい家族を作るとしても考えの中に入れてないと結婚出来ない場合もあるかもしれません。

一緒に人生を歩む人が必要

子供を産むことを考えると、年齢は気になりますが、養子をもろうという方法もあります。虐待を受けた子供のニーズを

見るにつけ、事情があつて子供を産めないけれど、子供が欲しいという人が育てた方が、どんなにか良いと思うんです。

それでも子供はいつか巣立ちます。そのときに、誰かそばにいて、暮らせるのは寂しくなくて良いと思います。

仲人をしてくれる人が少なくなつてしまった

男性も女性も結婚したいかたはたくさんいます。誰かが応援しないといけないと思います。

昔は仲人をしてくれる人がたくさんいました。今は少なくなりました。近所付き合い、人間の結び付きが希薄になつてしまったのかもしれない。

結婚を望む人たちにエール

あらゆる機会を利用して、一歩前に出ることが、結婚に一歩近づくことになると思います。そう信じて、どんなチャンスも見逃さないで、頑張つて欲しいですね。



袴田清枝さん(右)

秋田県北部男女共同参画センター 主任コーディネーター

結婚したい人を応援するために結婚相談所を始めた湯瀬早百合さんからお話を伺いました。リポーターのお母さんでもあるので、出来るだけ客観的な内容になるように心掛け、この部分の取材は、広報担当が行いました。また、県北部男女共同参画センターのからのお話も合わせてお伝えします。

ます。せっかく結婚したのに、親世代とうまくいかなくて、若い夫婦が、あるいは子供を残してお嫁さんだけが家を出るといふ不幸な例もあるようです。大切な家族がいなくなると、お互いのありがたみは身に染みてよく分かります。失った宝物の大きさが分かったときには修復することが困難になつているかもしれないのです。

結婚は、当人同士の問題です。しかし、家を継ぐことや親の問題で、結婚に至らないかたもたくさんいるようです。若い世代を見守る親世代も考え方を新たにして、応援して欲しいですね。

昨年、湯瀬早百合さんが、NPO法人を立ち上げる際に、お手伝いさせていただきました。「結婚相談」の仕事は、少子高齢化が大きな問題となつている今の社会にとって大変有意義なことと思つています。私たちは、男も女もお互いを理解して、住み良い社会を作ることをつその目標にして活動しています。その立場から、結婚もまた男女が共に幸せになるためのものであつて欲しいと願つています。

この地域では、長男に嫁をもつて家を守るといふ考え方が多いようです。それが悪いことではないと思いますが、結婚の妨げになつてしまうこともあり

男にとっても、
女にとっても、
幸せな結婚であつて
欲しいですね。